

平成 28 年 熊本地震災害に対する日本赤十字社兵庫県支部の対応について

平成 28 年（2016 年）4 月 14 日以降に熊本県で発生した地震災害に対する日本赤十字社兵庫県支部の主な対応及び救護班の活動等は以下のとおりです。

1 兵庫県支部の主な対応

月／日	時間	内容
4/14	21:26 21:50	熊本地方で地震(前震)発生 M6.5 震度 7 兵庫県支部「災害警戒本部」設置
4/15	17:20	「災害警戒本部」一旦解除、支部内は「連絡のとれる態勢」とする。 「平成 28 年 熊本地震災害義援金」受付開始
4/16	1:25 6:45 9:00	熊本地方で地震(本震)発生 M7.3 震度 6 強(後に震度 7 に訂正) 兵庫県支部「災害救護実施対策本部」設置 神戸赤十字病院 dERU 班 (国内型緊急仮設診療所) 姫路赤十字病院 DMA T (災害派遣医療チーム) 派遣決定 第 1 班 神戸赤十字病院救護班(支部主事含)出発 第 2 班 姫路赤十字病院 DMA T 出発
4/17	17:30	兵庫県支部災対本部会議において、第 3 班(姫路・神戸・支部合同救護班 1 班)の派遣(4/19～4/23)を決定 以後、第 10 班(5/10～5/14 日)まで 4 泊 5 日の日程で順次派遣計画を策定する)
4/19	AM	兵庫 dERU(国内型緊急仮設診療所)を益城町総合体育館に設置
4/20	8:10 18:35	益城町の熊本空港ホテル エミナースに大津日赤と合同で救護所設置 熊本赤十字病院の支援のため姫路から看護師 2 名を派遣 以降、6/5 現在、姫路・神戸から計 28 名の看護師を派遣 第 1 班帰着、報告会を支部 7F 大会議室で開催
4/23		現地災対本部要員 2 名を追加派遣(神戸 医師・主事)
4/25		こころのケア指導者を追加派遣(神戸 医師) 以降、5 月末現在、心のケア指導者、要員等を姫路、神戸、多可から延べ計 7 名を派遣
4/28		活動拠点を南阿蘇に移す
5/14		兵庫県支部の医療救護活動終了
5/19		兵庫 dERU(国内型緊急仮設診療所)撤収 (5/20 帰着)



2 活動人員

医師	看護師	薬剤師	主事他	合計
17人	39人	9人	39人	104人

※ 上記の他、被災地の熊本日赤病院に、病院支援として姫路、神戸の看護師を計28人派遣

3 兵庫県支部救護班の活動内容

	派遣期間	活動場所	所属(病院名)	備考
第1班	4/16～4/20	熊本市 益城町	神戸 兵庫県支部	益城町体育館に dERU 設置
第2班	4/16～4/20	熊本市、宇土市	姫路	4/16～17はDMATと して活動
第3班	4/19～4/23	益城町 熊本空港ホ テルエミナース	姫路・神戸 兵庫県支部	
第4班	4/22～4/26		姫路・多可・柏原 兵庫県支部	
第5班	4/25～4/29	益城町 熊本空港ホ テルエミナース 益城町 総合体育館	神戸 兵庫県支部	
(追加)	4/23～4/28	熊本県支部	神戸	災対本部支援
(追加)	4/25～5/1	熊本県支部	神戸	こころのケア コーディネーター
第6班	4/28～5/2	南阿蘇(南阿蘇中学 校、南阿蘇西小学校)	姫路、兵庫県支部	
第7班	5/1～5/5		姫路、兵庫県支部	
第8班	5/4～5/8		姫路・多可・柏原 兵庫県支部	
第9班	5/7～5/11		神戸、兵庫県支部	
第10班	5/10～5/14		姫路・多可・柏原 兵庫県支部	
(別途)	5/13～5/29	熊本県庁、町役場、熊 本日赤等	姫路・神戸・多可	職員並びに被災者 のこころのケア



〈 参考 〉 (日赤全体)

- (1) 医療チーム等の派遣 dERU班 4チーム 救護班 207班 約1,600人
- (2) 義援金受付額 358,450件 189億6,800万4,958円(6/21現在)
- (3) 救援物資 毛布 22,480枚、安眠セット 6,401セット、緊急セット 654セット
ブルーシート 11,230枚、タオルケット 400枚

(4) 発災後後期の活動内容

被災者健康支援事業の展開

現地医師会や保健師と連携のもと、看護師等の医療従事者による血圧や体重等の測定を行い、健康状態の把握・健康相談に応じる等、長期化する避難所での生活において、被災された方々の健康維持活動を展開した。